

知的財産事例

デザインパーツ株式会社

バイク部品の軽量化に向け「振動」の課題を解決 自社製品の誕生で、独自性や技術力のプロモーションが可能に

事業内容

2007年設立
四輪二輪向け試作部品製作
医療用部品、食品製造ライン用部品製作
各種金型部品製作
工場ラインの改善部品開発

知的財産権と内容

特許第6794595号	振動抑制シリーズ（ユレトルシリーズ）
特許第7030354号	斜面締結ボルト
特許第7430952号	ライン冷却ブッシュ
商標第6245853号	デザインパーツ
意匠第1666558号	カスタムノズル

他 特許権4件、意匠権1件

(2025年9月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役社長 菅沼 一喜さん

起業直後に不況の煽りを受けるも 根気強い独自性の追求により経営基盤の安定を実現

当社の菅沼社長は製造業者に10年ほど勤めていたが、業績の悪化により独立を勧められ、当時自ら開拓した顧客を引き継ぐ形で起業した。以降、バイクや自動車の試作部品製作や金属加工などの事業を続けている。2007年の創業直後は、経営も好調に推移していたが、その翌年にリーマンショックが起こったことから、当社も煽りを受けて一時は厳しい状況に立たされた。荒波に揉まれる中で、菅沼社長は「自社をPRできるもの」の必要性を感じるようになる。当時の税理士とのやり取りで「上手くいっている会社は特許を持っている傾向がある」と聞いたことから知財に興味を抱き始めた。その後、INPITが主催する知財セミナーに参加し、窓口担当者と知り合ったという。そして事前調査や申請方法についてのサポートを経て、2020年に初の特許を取得した。自社製品の誕生は大きなアピールポイントとなり、複数の大手自動車メーカーからの受注や共同開発に繋がったほか、インターネットを通じた問い合わせを受ける機会も増えたそうだ。

大手企業からも求められる自社製品の開発から 知財を「戦略」とする姿勢が強まった

当社の代表的な特許製品としては、知財を取得するきっかけにもなった『振動抑制ボルト』が挙げられる。これは顧客からの要望でバイクの部品を軽量化するに

あたり、従来緩みや異音の原因となりやすい「振動」が大きくなるという課題を改善するために開発された。はじめは社内で簡易テストを行い、工業試験センターでの実証でも効果が見込まれたため、INPITから紹介された弁理士に相談したという。また、意匠を取得している『カスタムノズル』に関しても、全長や噴射方向など細かいニーズに応えることができる精巧な仕様が特徴で、大手企業の注目を集めている。こちらは自社で図面を作成できるという強みを活かし、菅沼社長をはじめ、社員自らが弁理士等の助言を参考に書類の申請を担当したそうだ。近年では、より一層知財戦略を強化すべく、INPITの「重点支援（※現在は加速的支援）」も活用。特に「何をノウハウとして守り、何を知財として保護すべきか」を考え、社員全員に教育する契機となった。契約書に対する知識も深まったため、新たに取り組を進める際には顧問弁護士に内容を確認してもらうなど、より適切な体制を整備できたという。

知財はプロモーションでも重要な役割を果たす

特許の取得は、当社のホームページや展示会など、様々なプロモーションにおいても活用されている。信頼性や技術力の証明になるのはもちろん、顧客にとって「印象に残る」製品となったことで、引き合いのきっかけを得られているという。営業先にサンプルを持参して実際の機能を見ってもらう機会も多いため、具

体的な魅力をPRしやすくなった。また、INPITや担当弁理士の手厚いサポートの下で特許や意匠、商標などを併せて申請した経験により、「取得のコツを掴めた」と菅沼社長は語る。J-PlatPatにおける事前調査にも慣れ、開発の前に必ず先行技術を確認する流れが身に着いたことから、さらにスムーズに知財を取得できるようになった。今後も積極的にアイデアを形にしていき、技術の“見える化”や、ブランド力の強化に努める方針だ。

知財取得・活用における苦悩



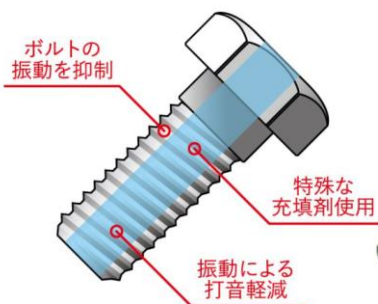
このように、INPITとの縁もあって円滑に知財を取得・活用している当社だが、最初の頃は独自性の裏付けや説得力のあるデータを総合的に採取するのに難航したこともある。通常業務がある中で、データ検証作業に時間を割くことが難しい上に、効果をどのような形で検証し、どの程度データを蓄積すればよいかといった知見がなかったためである。また、申請を差し戻された経験も一

度や二度ではない。しかし、その都度「何ができるか」を考え、弁理士と密に連携を取りながら前向きに解決法を模索していった。さらに、知財を取得した後、それを売上にどう繋げるかは現在も試行錯誤しているという。しかし、取引先との信頼関係の構築や引き合いの増加に繋がっている面も大きいと、折り合いを付けながら地道な活動を続けている。

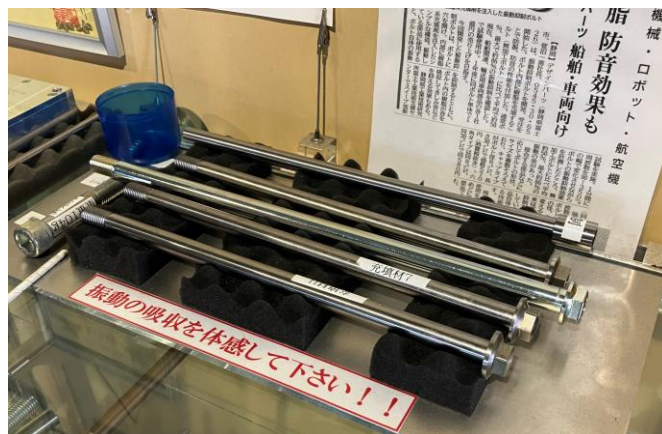
知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

「知財は、自社にとって“チャレンジの原動力”になっている。事業分野の特性上、技術を公開しにくいのが、特許によって外部にアピールできる手段が生まれた。メーカーになりたい、という想いが実を結んだ結果だと思う」と菅沼社長は話す。また、「とにかく『出してみる』ことが大切。アイデアは形にしなければ始まらない。それが利益や可能性に繋がることもあるので、まずは一歩を踏み出すことが大切だ」とも併せて語った。



特許商品である『振動抑制ボルト』の特徴。穴径や充填剤の種類も変更可能となっている



『振動抑制ボルト』の効果を実際に体感できる社内展示



知的財産活用のポイント

社員にも「考える力」を伝えたい 将来の知財戦略に向け、育成にも力を入れる

「当初は日常業務との兼ね合いが困難だったこともあり、知財に関する作業は自らが1人で進めていた」という菅沼社長。しかし、適任者を見定めつつ少しずつ協力体制を構築していった結果、近年では複数名が知財戦略に加わっている。重点支援等

の影響もあるが、何よりも「過去の成功体験が社員のモチベーションに繋がった面が大きい」と社長は話す。いずれは社員全員が特許の発案から出願に関われるよう、若手の育成にも力を入れているそうだ。知識の土台があれば、些細な話題の中でもアイデアが生まれやすくなる。そういった「考える力」を養おうとする菅沼社長自身の姿勢が、社内全体にも伝わり、また新しい発想を生み出していく。

COMPANY DATA

取材：2025年9月

企業名：デザインパーツ株式会社 所在地：静岡県富士市今泉777-1 電話番号：0545-30-6526

URL：<http://www.designpart.co.jp/> 創業：2007年 資本金：3000万円 従業員：23名

